

見守りジュニア育成事業

平成28年度多様な主体による連携強化・
発展型の消費者教育強化事業（富山県）

見守りジュニア育成実行委員会

本日の報告概要

- 事業の目的
- 実行委員会の構成
- 取り組みの狙い
 - 消費者教育の参加対象
 - 地域との連携
 - 実行委員に参加する大学生の成長
- 実施内容
 - 見守りジュニア育成講座
 - 消費者被害実態調査
 - 啓蒙リーフレットの作成
- 成果と課題

事業の目的

共働きの多い富山県では在宅しているのが祖父母と孫というケースが多いと考えられます。深刻化する高齢者への悪質な消費者被害に対して、**家族が守る**という構図を作り、被害の抑止につなげます。そのために、**同居の小学生**を対象とした消費者教育を行ないます。

実行委員会の構成

- 富山県生活協同組合
- 富山大学生生活協同組合
- 富山県立大学生生活協同組合
- ダスキンヘルスレント富山&高岡
- 地域包括支援センター
 - 藤ノ木・山室中部地域包括支援センター（富山市 藤ノ木校下）
 - 大山地域包括支援センター（富山市 大庄校下・上滝校下・福沢校下）
 - 黒部地域包括支援センター・黒部東地域包括支援センター
（黒部市 桜井校下）
 - 高陵・下関地域包括支援センター（高岡市 定塚校下）

取り組みの狙い①

■ 消費者教育の参加対象

メインターゲットは小学生

- 主体的な消費者になる前に学んで欲しい
- 地域での取り組みとして参加を呼びかけやすい

本当のターゲットは同行する祖父母

- 現役を引退したばかりで地域見守りの実践者になれる
- これまで消費者教育の場に来なかった高齢者への啓蒙が広がる

取り組みの狙い②

■ 地域との連携

地域包括支援センターに実行委員会参加依頼

- 地域への関わりのきっかけを欲している
- 地域の情報をたくさん持っている

会場に公民館を使用

- 自治振興会、地域の老人会との接点

■ 実行委員に参加する大学生の成長

プログラムを作成・準備する中でスタッフ参加する大学生の知識も高まり、若い世代の消費者市民教育が進む

実施内容①

■ 見守りジュニア育成講座

小学生と祖父母を対象とした学習会（認知症サポーター養成講座+消費者教育）を県内4ヶ所で実施

1) 認知症サポーター養成講座

小学生向けに内容をアレンジしてわかりやすく
楽しんで学べる工夫を盛り込みました。

2) インターネットの基礎講座

講師養成講座を受講した大学生スタッフが考えた
インターネットの正しい使い方のミニ講座

見守りジュニア育成講座①



ダスキン劇団による
認知症と物忘れの違いを
楽しくおかしく
学びました！

通常1時間半ほどの
講義をギュッと凝縮
して20～30分でポ
イントを絞りました



見守りジュニア育成講座②



指を使った体操で頭
と心のリフレッシュ

初めてのインター
ネットで起こりやす
いトラブルについて
大学生講師が活躍



見守りジュニア育成講座③



オレンジリングと
子ども免許証の授与

リアルな免許証に子
どもたちに大変喜ば
れました！

氏名 磯村 日葵		平成 28 年 月 日生
住所	富山市 3	
交付	平成 28 年 11 月 6 日	
有効期限	平成 30 年 9 月 1 日まで有効	
免許の 条件等	いつもお年寄りを大切にすること 大人にちゃんと相談すること 間違いに気付く勇気を持つこと	
番号	第 123456789 号	
基礎 認知	平成 28 年 11 月 6 日	認知症 リポーター
ネット	平成 28 年 11 月 6 日	インターネット 初級

消費者市民免許証

見守りジュニア
育成実行委員会

写真

実施内容②

■ 消費者被害実態調査の実施

配布数1000枚（対象：県生協65歳以上の組合員無作為抽出）

回収 511枚

内訳 被害なし 446枚

被害あり・あいそうになった 46枚

無効 19枚

■ 啓蒙リーフレットの作成

12月上旬に開催エリアの小学校へ配布予定

成果と課題

■ 育成講座参加者の声（子ども）

- 認知症だから、何もできないのではなく、ただ忘れていてだけで、認知症の人だからと言って**怒ったり、笑ったりしたら傷つく**ということがわかった。
- オレンジリングをはめるときは認知症のことを思い出したい。
- お母さん、お父さんと**相談してインターネット**をします。
- チャットやツイッターに個人情報を出さない。
- 勝手になんでもしない。時間を決めてやる。

成果と課題

■ 育成講座参加者の声（大人）

- 話ばかりではなく、**体操や寸劇**もあり楽しかったです
- **孫といっしょ**に参加できてよかった。自分も物忘れがあるので気を付けたい。
- インターネットは全く無知ですが、少しわかったような気がします。
- 色々の体験を**短い時間**に聞くことが出来よかったです。

成果と課題

■ 地域との連携について

- 開催場所毎に認知症サポーター養成講座を担当する地域包括支援センターが変わるが、**小学生向けには初めての取り組み**として実績になった。
- 小学校への宣伝協力要請では取り組みについて好意的だったが参加募集には貢献しなかった。
- 地域の自治振興会長、PTA会長、児童クラブ会長、老人会会長とお話させてもらったが、**年度の計画**として取り組んで欲しいと要請があった。
- **地区社協**へも協力要請を行い、もっとも協力的で参加者動員に貢献した。

成果と課題

■ 実行委員に参加する大学生の成長

- スタッフ大学生を対象に事前に認知症サポーター養成講座を開催（33名参加）
- スタッフ大学生対象にインターネットトラブル講師養成講座の開催（16名参加）
- 日替わりで手遊びやミニ講座の講師を担当し、経験を積みました。



ご静聴ありがとうございました